

■ 全教員で取り組むが成果確認は担任が行う 無印 担任が取り組む

学校教育目標	中期経営目標(カッコの数字は経営方針の番号)	短期経営目標	具体的な方策	評価指標	当初	達成状況		分析	改善策	学校関係者評価			
						中間評価	最終評価						
かしこく	○教員の資質向上(②)	■①授業を支える授業規律を身に付けさせる。	○授業開始と終了時のあいさつを学年で統一し、指導する。 ○「発言をするときは、挙手をし、指名されたら『はい』と返事をし、起立して」発言をさせる。語尾まで、しっかりとすることを指導する。 ○児童が発言しているときは「話し方のかきくけこ」「聞き方のあいうえお」を意識させる。 ○休み時間の過ごし方「①次の学習の準備②トイレ・水のみ③教室移動」のルールをクラス掲示で全校に指導していく。	A 身に付いた児童が80%以上	65.0%	64.9%	70.1%	授業の開始・終了時の挨拶や、休み時間の過ごし方のルールなどは、継続的に指導したり各学級に掲示したりしてきたことにより、しかし、発言の際に語尾までではっきり伝えたり、話の聞き方に気を付けたりするなどの数値が低かった。集団で声を出すことは安心できるが、一人では自信がないことなどが考えられる。	1年間で伸びた点については子供たちに伝えて価値付け、次年度にも継続できるように教職員全体で共有していく。学習中の発言の仕方やルールは「七小の基本」と位置付け、年度当初から全学年全学級で指導していく。	・学習でよい成績が取れると子供の意欲が伸びる。それを褒められるとまたやる気が出てくる。そうした相乗効果が期待できるので継続してほしい。 ・研究の内容が他教科に渡って横断的に身に付いていけるような指導をお願いしたい。 ・様々な工夫をもって指導してくれているのがよく分かる。これからもお願いしたい。 ・6年生のわくわく発表会の内容が、よく調べられているように感じている。2年生は自由奔放に活動している感じもあつたけれど、発達段階によるのだろう。 ・わくわく発表会では、回を追うごとに発表の質が上がっている。ただ、保護者のおしゃべりがひどく、思わず注意をしてみました。 ・(わくわく発表会では)その学年らしい色が出ていた。学校公開に来る保護者ともうでない保護者との差が開いている。もっと保護者と学校で連携できるとういと思う。 ・学校公開が多くなることで、保護者が来やすくなっている。PTA同士で保護者に声を掛け合うことができればいいと思うが、学校のはたきかけには限界があるのかもしれない。			
			○漢字指導の際、成り立ちや使い方、関連して一度に覚えた方がよいものについて教師が意図的に指導し、漢字学習への興味を高めさせる。 ○小テストなどで合格基準を設定してうえで成果確認をし、結果に応じて家庭学習をさせるなど、繰り返し練習させる。 ○朝学習の時間、家庭学習の機会に、復習を取り入れる。	A クラスの8割以上の人数が成果確認問題の合格基準を達成							71.6%	80.2%	低・中学年は中間報告との差はないが(低…83→83%、中…70→70%)、高学年の伸びが著しい(64→87%)。これは、学習方法の指導改善・工夫が児童の意欲の向上につながったことが大きな要因だと思われる。児童の努力が点数の向上となって具体的に示された結果、「次もがんばろう」「がんばればできる」という思いを児童がもつことができた。
			○小テストなどで合格基準を設定してうえで成果確認をし、結果に応じて家庭学習をさせるなど、繰り返し練習させる。 ○朝学習の時間、家庭学習の機会に、復習を取り入れる。	B クラスの6割以上8割未満の人数が、成果確認問題の合格基準を達成									
		○計算技能を身に付けさせる指導をする際、生活場面等の事象を通して計算の必要性をもたせたり、計算の方法や意味理解について説明させたりするなど、教師が意図的に指導し、計算への意欲を高めさせる。 ○小テストなどで合格基準を設定してうえで成果確認をし、結果に応じて家庭学習をさせるなど、繰り返し練習させる。 ○朝学習の時間、家庭学習の機会に、復習を取り入れる。	C 成果確認問題の合格基準を達成した児童が、クラスの6割以下の人数	68.4%	79.6%	漢字と同様に、低・中学年は中間報告との差はないが(低…83→81%、中…77→78%)、高学年の伸びが著しい(49→79%)。6年生は1学期の学習内容と比較して2学期は少し容易だったとも考えられるが、6年間の経験から様々な自主学習の方法を知り、学習の計画を立てて実行する力が身に付いてきたということも考えられる。	漢字と同様に計算技能は、数値の向上が最も顕著に表れる。努力が数値の向上につながったとき、学習の意欲は高まり、次の努力となった。努力→数値の向上→努力、と良い流れとなった。ただ、文科省の学力調査の結果などから、目的に応じて必要な情報を取り出して問題解決に生かしたり、式の意味を正しく捉えたりすることを苦手とする児童も少なくない。技能の習得に関する意欲向上を算数学習全体に広げていきたい。						
○「学ぶ価値があり 学びの喜びがわくもの」という視点で教材を吟味・選定したり、地域素材を教材化したりするなど、体験的な活動も重視しながら、教材の精選・開発をしていく。 ○ほめる、認める、価値付けるなどをして、自己肯定感をもたせたり、満足感・成就感をもてるような適切な助言・発問を工夫する。 ○子供同士のコミュニケーションが活発で、よい事はよいと認め、失敗や誤りを温かく見守ることができる、学び合いにふさわしい学級の雰囲気づくりに努める。	A 児童の自己評価と、担任のみとり(発言・提出物・ノート・態度等)により、クラスの8割以上の人数が、意欲的に学習に取り組んでいる。	73.0%	74.6%					73.4%	児童アンケートの結果(85%)が中間報告時の数値(77%)よりも上がった。上記の漢字や計算のように、目に見えて数値が結果として評価されたことが意欲につながっていると考えられる。ただし、教師側からは特に発言の仕方(発言する児童の固定化など)・提出物・ノートなどを活用についてはまだまだ課題があると考えている。	学年が上がるにつれて発言する児童が固定化していくのは否めないこと、と捉えずに、自己表現する場の工夫を模索していく。ノートの記録の仕方の模範になる例(前年度の児童のノートを借りて展示する、など)を学年当初に示したり、定期的に「ノート展覧会」などを行って意識を高めていく。			
○年3回「いじめアンケート」を実施し、聞き取りを丁寧に行い、全職員で予防策・早期発見に努める。 ○ふれあい月間の機会を生かし、DVD教材等を活用し、自分や他の命を大切にしようとする児童の態度を育む。 ○5年生とスクールカウンセラーの全員面談を実施し、心配な児童には改めて個別対応する。可能な限り給食交流も行う。 ○毎学期の担任との全員面接の際には、交友関係についても丁寧に聞き、いじめにつながるような案件には早期対応を心掛ける。	A 把握から一定の解決まで3週間以上かかっている案件が0										調査中	1件	6件
○自尊感情調査を実施し、特に数字の低い児童においてはそれぞれにあった自信の持たせ方を教職員で共有する。 ○学期に一回の担任による全員面接の際、児童の長所を一人一人伝えることで自己肯定感を高めさせる。 ○特別活動部との連携により、児童の様々な表現活動を交流する場を設けたり、縦割り班活動でリーダー学年から下学年を励ましたりするなどして、児童相互がよさを認め合う指導をする。 ○日頃から、保護者と密に連絡を取り合い、児童のよさや、つまずきを共有し、「励ますポイント」を共有して児童に自信をもたせるようにする。	B 把握から一定の解決まで3週間以上かかっている案件が3件未満			7.0%	4.7%	A	1点台の児童が減ったことは、日常の学校生活や授業・行事を通して、児童自身が成就感をもてたり、教師や友達から褒められたりしたことがつながっていると思われる。ただし、学年が上がるにつれ、1点台の児童の数も増えている。自我が芽生え、他と比較したり、目標と現状とのズレなどに気付いたり、客観的な視野が広がってくると考える。						
○児童が主体的に取り組めるような「あいさつ宣言」を作成し、校内に掲示して、あいさつについての自覚を高めさせる。 ○校長講話であいさつに特化した話をする。特に高学年の自覚を促す。 ○朝会時、6年生代表児が「一声とあいさつ声掛け」をし、全校児童に範を示す。(例：「もうすぐ運動会です。頑張りましょう。おはようございます。」) ○生活指導月目標で重点化し、あいさつ運動の取り組み。	C 把握から一定の解決まで3週間以上かかっている案件が3件以上	66.0%	68.4%					69.5%	中間報告と同様に、児童アンケートの数値(92%)と大きく離れている。①の考察と重なるが、全校朝会や始業・終業の際の挨拶は全員で声を出すので安心できているが、一人一人声を出す場面は自信がないのか声が小さくなる。例えば、教室移動で特別教室(図工室・音楽室など)の出入りの際は、指導をしないと無言で通り過ぎてしまったり、外部の方と廊下ですれ違っても子供たちは素通ししてしまう。	「自分から」挨拶ができる児童を育成するために、具体的な場面を教員が想定し、児童に示していく必要がある。例えば、朝や帰りの挨拶の言葉は良くできているが、校内に外部の方(地域の方・保護者など)がいらっしゃった時に「こんにちは」の声はあまり校内に響いていない。そこで、『「こんにちは」の聞こえる学校』など年間を通して指導項目を設定し、児童が意識して取り組めるようにしていく。			
○毎日の外遊びを励行するとともに、元気アップタイム、短縄月間の取り組みを充実させる。 ○東京都の体力テストの結果を分析し、とくに苦手な種目について、特化した改善への取り組みを実施する。	A 自己受容評価1点台の児童が全校児童の5%未満										77.5%	82.2%	B
○校長講話などで、食についての話をし、残菜減量についての意識啓発をする。 ○発達段階により、黙って食べる「もぐもぐタイム」や、「完食シール」発行などの、具体的な取り組みを実施する。 ○給食指導目標を基に、各学級で声かけをし、残菜減量に向け声かけをする。 ○給食週間を各学期1回設定し、特にその期間は、食への興味を高め、残菜を減らせるような声かけを担任がする。	B 自己受容評価1点台の児童が5%以上10%未満			78.0%	80.1%	79.0%	市の残菜調査からも、本校の児童はよく食べているということが分かる。中間報告と同様に、自分の適量を知って配膳の量を調節することが定着している。給食の時間が限られているので、時間内に食べきれないという児童もいる。また、一般的に濃い色の野菜の温野菜サラダが苦手という傾向もみられる。						
○給食を自分で食べることができる量に調節し、完食する児童が80%以上	C 自己受容評価1点台の児童が10%以上	B	A					B					
○給食を自分で食べることができる量に調節し、完食する児童が70%以上80%未満	A 90%以上の児童が身に付いている								66.0%	68.4%	69.5%	中間報告と同様に、児童アンケートの数値(92%)と大きく離れている。①の考察と重なるが、全校朝会や始業・終業の際の挨拶は全員で声を出すので安心できているが、一人一人声を出す場面は自信がないのか声が小さくなる。例えば、教室移動で特別教室(図工室・音楽室など)の出入りの際は、指導をしないと無言で通り過ぎてしまったり、外部の方と廊下ですれ違っても子供たちは素通ししてしまう。	「自分から」挨拶ができる児童を育成するために、具体的な場面を教員が想定し、児童に示していく必要がある。例えば、朝や帰りの挨拶の言葉は良くできているが、校内に外部の方(地域の方・保護者など)がいらっしゃった時に「こんにちは」の声はあまり校内に響いていない。そこで、『「こんにちは」の聞こえる学校』など年間を通して指導項目を設定し、児童が意識して取り組めるようにしていく。
○給食を自分で食べることができる量に調節し、完食する児童が70%未満	B 80%以上90%未満の児童が身に付いている			C	C	C							
○給食を自分で食べることができる量に調節し、完食する児童が70%未満	C 身に付いている児童が80%未満	77.5%	82.2%				B	B					
○校長講話などで、食についての話をし、残菜減量についての意識啓発をする。 ○発達段階により、黙って食べる「もぐもぐタイム」や、「完食シール」発行などの、具体的な取り組みを実施する。 ○給食指導目標を基に、各学級で声かけをし、残菜減量に向け声かけをする。 ○給食週間を各学期1回設定し、特にその期間は、食への興味を高め、残菜を減らせるような声かけを担任がする。	A 給食を自分で食べることができる量に調節し、完食する児童が80%以上								78.0%	80.1%	79.0%	市の残菜調査からも、本校の児童はよく食べているということが分かる。中間報告と同様に、自分の適量を知って配膳の量を調節することが定着している。給食の時間が限られているので、時間内に食べきれないという児童もいる。また、一般的に濃い色の野菜の温野菜サラダが苦手という傾向もみられる。	配膳を効率的に行い、食べる時間をしっかり確保していくこと、給食の時間が節度ある楽しい時間となるよう、時間と場の工夫をしていく(担任がおいしそうに食べる、食についての話題を話す、など)。偏食などの児童の苦手傾向を担任が捉え、努力の方針を示して達成できたときには褒めるなども効果的であると考えられる。
○給食を自分で食べることができる量に調節し、完食する児童が70%以上80%未満	B 給食を自分で食べることができる量に調節し、完食する児童が70%以上80%未満			B	A	B							
○給食を自分で食べることができる量に調節し、完食する児童が70%未満	C 給食を自分で食べることができる量に調節し、完食する児童が70%未満	78.0%	80.1%				79.0%	市の残菜調査からも、本校の児童はよく食べているということが分かる。中間報告と同様に、自分の適量を知って配膳の量を調節することが定着している。給食の時間が限られているので、時間内に食べきれないという児童もいる。また、一般的に濃い色の野菜の温野菜サラダが苦手という傾向もみられる。					

達成状況の指標 各項目の評価指標を参照